

静かに流れる水の風景

豊かな水をたたえ、悠然と流れる雄物川。静かな水面にカヌーを浮かべて、のんびり川下り。
各地に舟着場もできて、市町合併で川の楽しみも広がったぞ！

雄物川



妙法付近では、見事な杉林が見られます。川幅も広く、おだやかな流れに身をまかせ、水鳥になった気分。水沢橋が見えてくると、もうすぐ上大部舟着場。



観光りんご園のすぐ近くにある「種沢舟着場」。広い駐車場もあり、スロープの幅もゆったりしています。

妙法舟着場

中川橋

種沢舟着場

新波橋

新波舟着場

大仙市
協雄大橋

秋田市に入つて最初の舟着場となる「新波舟着場」の標識。



秋田と山形の県境にある大仙山に源を発する雄物川。その長さは一三三キロ。県内第一の河川です。藩政時代には、県南の穀倉地帯から米などを運ぶ重要な輸送路として利用されました。川筋には、荷の積み出しなどを行う「船場」と呼ばれた川港が点在し、新波(雄和)、石田坂(豊岩)、新屋もそれらのひとつでした。

雄物川にもっと親しんでほしいと、国土交通省が二十七か所(秋田市内には十か所)の「カヌー発着場」を整備しました。カヌーを川におろすためのスロープと大きな標識が設置され、「舟着場」とも呼ばれています。





秋田南大橋を過ぎたあたりから、景色が少し変わってきます。左手には西部工業団地の大きな建物。時折大型トラックが走る秋田大橋・雄物新橋も見えてきます。ここまで来ると日本海まではあと三キロほど。最後の舟着場となる「割山舟着場」からは河口が望めます。

NPO法人
秋田パドラーズ
tel(863)1166
サンパティオ大町・あーく内



7月30日、親子カヌー教室に参加したみなさんと記念撮影も向けの水難事故防止講習などの活動を行っています。カヌーのことはもちろん、釣り情報やパドドウトッチングまで、雄物川の魅力をたくさん教えてくれます。

カヌーは私たちにおまかせ
公民館などが主催するカヌー教室に協力してくれているのが、NPO法人秋田パドラーズのみなさん。川と自然をこよなく愛し、雄物川流域のクリーンアップ、川を活用したイベントの提案、子ども向けの水難事故防止講習などの活動を行っています。カヌーのことはもちろん、釣り情報やパドドウトッチングまで、雄物川の魅力をたくさん教えてくれます。



カヌーに二人で乗るときは、前の人がエンジン役、後の人が舵取り役。ライフジャケットをきちんと着用し、増水時は川に出ないなど、安全対策は万全に！

七月三十日に開かれた「親子カヌー教室」では、十三組二十六人が川下りに挑戦。当日サポートしてくれた秋田パドラーズのスタッフから、パドルの持ち方・こぎ方、安全に楽しく川を下るための説明を受けた後、種沢舟着場から、ゴールの上大部舟着場をめざし、元気にこぎ出しました。

スタートしてしばらくは、兩岸に杉林が広がります。カヌーからしか見ることのできない、水面近くからの景色。緑が青空に映え、静寂の中で聞こえてくるのは、鳥の鳴き声と「スーッ」というカヌーが水を切る音。どこか外国にいるような気分になります。

途中、川の中州に「上陸」して休憩。ここもカヌーでしか行けない場所です。出発から約二時間、一行は無事、雄和市民センター近くの上大部舟着場へ到着しました。

「カヌーの操作は以外に早く慣れました。沈ちゃん：カヌーが転覆することしなくてよかった。とにかく景色がすばらしかったです。」

参加したみなさんは、口々にそう話してくれました。

これからの季節は、紅葉も楽しめる雄物川。すがすがしい空気の中、みなさんも水鳥気分を味わってみませんか。